

共通科目

研究方法Ⅰ (看護研究基礎)	看護研究の実例に触れることで、看護実践の向上に寄与する研究の意義と役割の理解へとつなげる。各領域の看護研究に触れながら、研究遂行のために不可欠となる看護研究の基礎理論を身につけ、研究費申請を含めた研究計画ならびに倫理委員会への申請書類の立案能力を高める。
研究方法Ⅱ (看護研究応用)	看護研究の応用力を身につけることを主眼に、質的・量的の主たる研究デザインの類型についての理解を深める。さらに、看護研究論文の批判的読解手法の習得を基軸に文献レビュー法とメタアナリシス研究手法について学ぶとともに、看護の各研究領域に特有のデザインについて理解し、多職種連携を念頭においた看護研究について幅広くプロトコルを策定できる能力を身につけ、多様な局面において看護研究を計画・遂行・報告できる応用力を身につける。
看護教育特論	教育学の基本的原理をふまえたうえで、授業設計、授業分析、教育方略、授業評価および教育評価の特性を概説し、看護教育への適用について検討する。さらに看護教育の歴史、制度、対象、方法等の特性を概説するとともに、看護基礎教育におけるカリキュラムの構成、カリキュラム分析、看護継続教育、卒後教育について教授する。これらを基盤に、看護基礎教育、看護継続教育、ならびに大学院教育、高度実践看護教育の現状と課題を検討する。
看護倫理学特論	医療の進歩や人々の死生観、健康に関するニーズの変化など、医療や福祉のみならず社会においても倫理的な実践力のある看護職が求められている。人々の尊厳を守り、その人らしい生を支えるために必要な倫理的知識や概念、分析力、行動するための方策について教授・検討し、個人の能力の向上とともに組織の中で倫理的なリーダーシップを担える能力を身につける。 教授方法は、講義の他に、倫理事例の分析、プレゼンテーション、ディスカッションを通して、看護倫理に対する理解を深め、実践力の向上を目指す。
チーム医療特論	近代医学、生命科学は急速に発展を遂げ、我が国では、大きく平均寿命の延伸を達成した。超高齢社会を迎えて疾病構造も変化しており、また医療に対する社会のニーズも変化しつつある。病院・診療所・地域医療を問わず、全ての医療職がその専門性をいかんなく発揮するためには、患者とその家族を中心とした専門職の協働、すなわちチーム医療の実践が不可欠であり、そのための人材の育成が求められている。本科目では、チーム医療の実践に不可欠な構成員の役割と機能を概括するとともに、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、それぞれの専門職が、チーム医療実践の具体例を提示し、履修者の研究計画との接点につき相互討論する。

公衆衛生学特論	看護実践に必要な公衆衛生学の各領域の課題について、論点整理を行う視座を身につけ、高度専門職としての知識を高め、臨床・地域における多職種連携に貢献できる人材になることを目指す。
地域包括ケア特論	地域で暮らすさまざまな人々が、住み慣れた地域でその人らしく生きていくことができるよう看護の立場から地域包括ケア論を教授する。また、様々な発達段階や健康レベルにおける困難や複数分野の課題を抱え、複合的支援を必要とする対象を支援するための高度な対人支援能力を養う事を目的とした生活支援方法やケアシステムの開発を目指す。 講義方法はオムニバス方式、分野横断的にディスカッションをしながら必要な知識並びに実践能力を修得する。
疫学保健統計学特論	看護研究で日常的に用いられる疫学及び統計解析手法について、実例を参照しながら基礎能力を身に付けることを目的とする。そして、統計解析を遂行し、研究報告能力を高めることを目的とする。看護研究における疫学・統計学の活用例として、データベースの理解、データクリーニングとデータ管理、治療効果・曝露効果の疫学指標、平均値・割合の比較と信頼区間、一般線形回帰モデル、ロジスティック回帰モデル、交絡の調整、無作為割付・無作為抽出、生存時間解析、時系列データ解析などを行う。
臨床心理学特論	臨床心理学の歴史と理念を理解し、心理アセスメントや臨床心理学理論について解説を行う。また乳幼児から高齢期までの生涯発達を通して、ライフステージにおける課題について解説し、その発達臨床的課題について事例等を通して解説する。精神疾患の臨床的接近、発達障害についてその心理的アセスメント、心理的観察方法、心理的治療について概説する。看護に活かす臨床心理学の理解を深める。
社会福祉学特論	現代社会の特徴を理解し、現代社会の中で起きている社会福祉的事象について解説を行う。社会福祉の理念や歴史、法律や制度・サービスを解説する。対象は、貧困、子ども、高齢者、障害者、ひとり親家庭、マイノリティ等である。それらの対象に実際に個別支援計画をたて、福祉的解決の現状とこれからの展望と理解を深める。ソーシャルワークの実践的方法論についても解説を行う。地域社会の中で暮らす人々で、様々な人との地域共生社会を理解する。
臨床栄養学特論	医療現場における適切な栄養管理は、傷病の慢性期、急性期いずれにおいても全身状態と局所の改善に寄与する。本講義では、栄養管理の実践につき、担当教員それぞれの専門領域における今日的な臨床的課題を概説し、栄養学的観点からリーダーシップをとれる看護師を目指す。

専門教育科目 基盤看護学領域

看護管理特論	看護を取り巻く現状および看護管理の発展経緯を理解し、高度実践看護職および管理者としてあらゆる場での多職種との連携・協働に必要な看護管理の基本的諸理論について教授する。組織の現状分析と課題および課題解決に向けた方策について検討する。安全で質の高い看護を効率的に提供するための制度や政策および、看護職へのはたらきかけについて討議し、今後の研究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに沿って講義形式と院生が主体となり事例紹介や発表などグループディスカッション形式により展開する。
看護管理演習	看護管理における諸理論、質の高い医療・看護を提供するための組織とその構造・管理運営方法、保健医療福祉に携わる人々および組織管理者との調整・連携、人的資源管理、ケアの質向上や看護職の資質向上のための制度や政策決定過程について議論し、国内外の現状・課題を整理する。関連する理論、理論的枠組みを設定し、討議する。先行研究の検討、クリティークの力を培うとともに、関連理論を熟考し、概念分析を用いて研究テーマを精選した後、研究枠組みを設定する。
小児看護学特論	現代の子どもと家族が抱える健康問題を生涯発達視点から理解し、小児看護の課題を整理する。子どもの成長・発達、健康障害、養育環境など、国内外の小児保健・看護の現状を概観し、健康課題に関する現象を解析する。子どもと家族にまつわる健康課題をアセスメントし有効な援助方法を検討するために、関連する概念および諸理論を学ぶ。授業方法は、各単元のテーマに沿って講義および演習方式で構成し、カンファレンスは学生が主体的に運営する。グループディスカッションを通して、自己の実践活動の基礎となる理論的思考を習得する。
小児看護学演習	子どもと家族に関する援助方法や実践的な支援システムなど、国内外の研究論文を精読し子どもと家族にまつわる特定課題を抽出する。関連文献の検索、論文のクリティークを実施し研究課題を見出すとともに代表的な研究デザインを学び、先行研究の理論的基盤に基づき文献レビューを作成する。さらに、小児看護に関連する学術集会に参加し最新の知見を踏まえて自己の研究課題を追求するための研究計画を展望する。

成人看護学特論	成人期にある健康障害を抱えた人々の理解、及びそのような人々への看護の基盤となる理論、概念および看護実践に必要な方法論について学ぶ。その上で、成人期にある人が自らの能力を最大限発揮でき、健康の回復、慢性疾患との共存、自らが望む人生の最後を過ごすための看護実践について検討を行い、理論や概念と現象を結びつけ、よりよい看護実践についての考察を深める。また、このプロセスにおいては、個人の看護実践に留まらず、看護チーム全体の看護力の向上を目指すための方策についても検討し、チームを牽引できる力を身に付ける。
成人看護学演習	成人期にある健康障害を抱えた人々への看護に関する課題について、学生がもつ課題や関心のあるテーマについて、国内外の文献検討・クリティークを行い、課題の明確化および課題への取り組みについて検討する。演習方法は、学生のプレゼンテーションとディスカッションを主体として行い、自らの関心のあるテーマを追求し、発表するという体験を通して、研究者として、また、看護チームのリーダーとしての基礎的な能力を身につけることを目指す。実践的な課題の場合は、看護介入方法についてシミュレーション演習のシナリオ作成・演習の実施を取り入れ、より実践的な介入方法の検討を行う。
老年看護学特論	老年看護を探究するうえでの基盤となる高齢社会の現状について統計調査を基に考察し、そこから見えてくる看護課題について検討する。また老年看護の対象である高齢者の特徴と発達課題について教授し、老年期特有の健康課題を抱える高齢者とその家族に対する専門的支援の方法と看護の課題を見出す。具体的には認知症ケア、終末期ケア、介護サービスや家族介護、高齢者看護における倫理的課題としての身体拘束に関する問題など実践例を通して検討し、今後の研究課題の明確化を図る。教授方法は、各回のテーマに沿って講義形式と院生が主体となり事例紹介や発表などグループディスカッション形式により展開する。
老年看護学演習	高齢者の特徴、健康問題と健康の維持・増進、疾病予防と管理、老年看護の看護課題としての認知症ケア、終末期ケア、倫理的課題としての身体拘束など、老年看護が抱える様々な看護課題に関する国内外の先行文献を検討し、論文クリティークの力を培う。そこから、自己の研究課題と研究方法を見出し、研究計画作成の基礎的な能力を養う。また、関連する学会への参加を通じ最新の老年看護の課題を把握するとともに知見を深め今後の課題を明らかにする。

専門教育科目 広域看護学領域

健康医療政策学特論	健康医療政策の決定過程について健康医療政策学的視座を理解し、実際の事例を通じて理解を深め、多職種連携・地域包括ケアにおける保健医療政策に貢献しうる能力を身につける。
健康医療政策学演習	政策の最終受益者である住民をはじめ各ステークホルダーへの調査方法や、それを基にした政策決定から評価、修正までの各サイクルを演習する。政策決定過程に必要な統計値の推定についての理論や手技について統計学的演習を行う。政策立案に必要な文献レビュー、記者会見などのシミュレーションを行い、政策に係わる複合的な要素について理解を深める。
ウイメンズヘルス看護学特論	ウイメンズヘルスケアの歴史的変遷や役割について理解し、様々な概念や理論について教授する。女性のライフステージ全般（思春期・成熟期・更年期・老年期）にわたる健康問題及び周産期における母子やその家族の健康支援について理解し、対象のニーズに合わせた支援の在り方を科学的根拠に基づいて探究する。教授方法は、講義形式を中心に一部学生のプレゼンテーションやディスカッションも取り入れた双方向授業を展開する。
ウイメンズヘルス看護学演習	女性のライフステージについてリアラクティブヘルス・ライツの視点で診ること、各ステージの健康課題や周産期の健康について生じる現象および対象について理解を深められるように教授する。周産期においては、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の各期に起こる健康課題について理解を深めるとともに、出生前診断や生殖補助医療など周産期医療体制や医療倫理の課題の探究能力を養う。授業方式は国内外の著書や論文をもとにテーマに基づき教員と学生のプレゼンテーションとディスカッションにより構成し、学生の診断能力及び問題解決能力を養うことを目指す。
精神看護学特論	精神看護における高度実践の基盤となる精神状態のアセスメントと、精神分析理論、対象関係論、セルフケア理論など、対象理解のための理論を学ぶ。さらに、看護理論の具体的展開方法と援助関係の実践について討議し、援助者としてのあり方とストレンスを高めるための支援について考究する。メンタルヘルスの現状と課題を探索し、効果的な地域包括ケアシステムの在り方を考究する。
精神看護学演習	メンタルヘルスの予防、ストレス対処に関する心理教育、コミュニケーションを基盤とした治療的介入技法について体験を通して介入技術を学び、治療的介入技法を習得する。授業方法は大学院生が主体となり、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れ、理解を深めていく。さらに精神看護に関連する研究テーマを考究するための方法論について教授する。

産業看護学特論	産業保健・産業看護の内外の歴史を振り返り、また現在の社会状況や社会的要請を分析しつつ、将来に向けて、産業看護職としての普遍的な役割を明らかにする。また産業看護の定義、産業看護に必要な理論・モデル、産業看護職の職務の特性など、産業看護を推進するための知識を理解し、そこから産業看護職としての支援のあり方、産業看護職に必要なコンピテンシーや技術、情報の取り扱い等について考究する。さらに、あるべき姿と現実のギャップを埋めるための課題を明確にし、自らの考えを構築できるようにする。
産業看護学演習	産業保健・産業看護活動を推進するうえでさまざまな知識、具体的には労働の生理的・心理的負担、人間工学の考え方や実際の適用方法、職業がん、有機溶剤中毒などの職業性疾病、高血圧、虚血性心疾患などのいわゆる作業関連疾患の成因と予防対策などについて、事例・論文の検討、クリティークを通して、特論で学んだ知識が研究テーマの絞り込みに活かせるようにする。加えて、産業保健・産業看護活動にとって特に重要な、コミュニケーション技術、コーディネーション技術、保健面接技術、ケースワークの力を、ロールプレイや議論を通して身につける。さらに、保健医療情報の特徴と種類、業務分析に必要な情報処理技術とプライバシーの保護を含めた情報管理技術を修得する。授業は受講生が主体となった事例や論文のクリティーク、ディスカッションを中心に実施する。
地域看護学特論	すべての人々が、健康障害の有無にかかわらず、その人が望む生活を維持向上できるように、病院・施設・地域のあらゆる場において、患者・家族および地域の人々を生活者の視点でとらえ、住み慣れた地域においてQOLの高い生活の営みを支援するための学際的探究方法を修得する。また、コミュニティ（地域）そのものも看護の対象と捉え、健康で安全な地域社会の構築に寄与することを探求するとともに、実践への適応について検討する。
地域看護学演習	本授業はゼミナール形式で展開する。各自で取り上げた研究テーマにおいて具体的な研究テーマの絞りこみや研究方法を検討する。具体的には、特論で学んだ課題解決手法等をもとに受講生と共に最適な課題解決方法を検討する。さらに、研究成果の地域看護学分野における活用可能性について現場の活動および関連文献を用いてディスカッションを行う。これらを通じて、地域看護における理論的知識と実践との往還、課題に対する柔軟な思考能力と深い洞察力、主体的な実践能力の育成を目指す。